

上マージン 30 mm

農業農村工学会論文集の完全版下原稿 (邦文) の作成例 Ver.5

左マージン 20 mm

約 5 mm

— サブタイトルの作成例 — ← 10 pt

↑ 16 pt

約 10 mm

学会太郎* 論文 花** IRRIGATION Jan*** ← 12 pt

約 5 mm

* 農土大学農学部, 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

** 農土開発株式会社, 〒812-0053 福岡市東区箱崎 6-11-2 ← 8 pt

*** Department of Geography, University of Arizona, Tucson, Arizona 85721, U.S.A.

Correspondence : 学会太郎, e-mail : gakkaitaro@jsidre.or.jp

10 mm

約 10 mm

要 旨 ← 9 ptゴシック

8 pt

この原稿は、農業農村工学会論文集の完全版下原稿 (邦文) の作成例です。ここに、完全版下原稿を作成するのに必要なレイアウトやフォントに関する情報を記述しています。この原稿作成例を参考にして、題目や文章、図表などをレイアウトしてください。なお、本作成例と併せて「完全版下原稿作成上の注意点」も参考にしてください。

この要旨を含め、邦文題目部分の幅は本文よりも左右 10 mm ずつ狭くします。要旨のフォントは、漢字・仮名は明朝体の全角 8 pt、英字・数字は Times などの代表的な Roman 体の 8 pt を用いてください。要旨の長さは 1 行約 50 文字で 7 行以内です。要旨の後に 1 行空けて、邦語キーワードを 5~7 個、明朝体 8 pt で書いてください。

約 5 mm

キーワード : 明朝体 8 pt, 5~7 語, 2 行以内, 要旨の後に 1 行の行間スペース, キーワードが 1 行を超えたらインデントして折り返す

↑ 8 ptゴシック

約 10 mm

8 pt

10 mm

1. はじめに ← 10 ptゴシック

第 1 レベル見出しの後は 1 行空ける ↓

この原稿作成例には、完全版下原稿 (邦文) を作成するために必要なレイアウトやフォントに関する情報が記述されています。この作成例に従って原稿を作成してください。なお、使用するワープロ、パソコンなどの機器やソフトなどによって、設定したフォントサイズと見た目のサイズが異なることがあります。そのような場合は、原稿作成例のフォントサイズに限りなく近いフォントを選んでください。

第 1 レベル見出しの前は 1 行空ける

2. 全体のレイアウト ← 10 ptゴシック

1 行

ここでは、完全版下原稿全体に関わるレイアウトについて説明します。

第 2 レベル見出しの前は 1 行空ける

2.1 構成 ← 9 ptゴシック

完全版下原稿は、次の 3 つの部分で構成します。

- ①邦文題目部分 : 横 1 段組
(題目, 著者名, 所属機関名, 同住所, 要旨, キーワード)
- ②本文部分 : 横 2 段組
- ③英文題目部分 : 横 1 段組
(題目, 著者名, 所属機関名, 同住所, 要旨,

2.2 原稿用紙 ← 9 ptゴシック

原稿用紙は、縦置き A4 用紙で、横書きとします。

2.3 マージン ← 9 ptゴシック

基本的なマージンは、次のとおりです。

上マージン : 25 mm
ただし、1 ページ目の上マージンは 30 mm

下マージン : 20 mm

左右マージン : 20 mm
ただし、題目部分の左右マージンは 30 mm

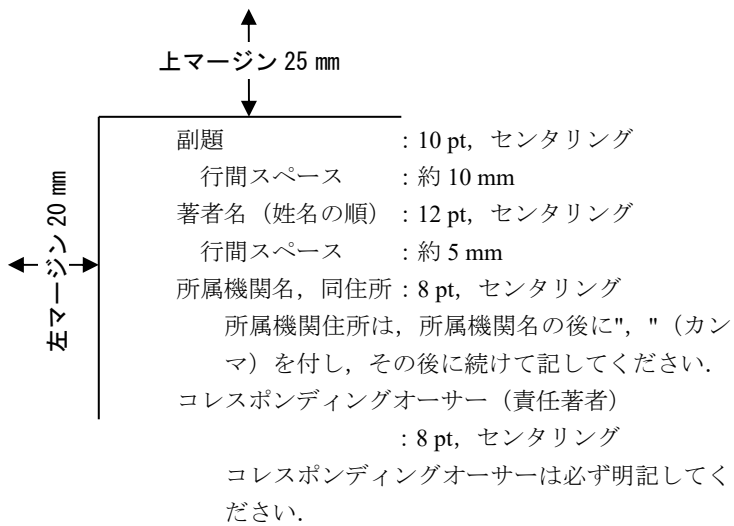
2.4 ヘッダおよびフッタ ← 9 ptゴシック

ヘッダおよびフッタは事務局で入れます。

3. 邦文題目部分のレイアウト ← 10 ptゴシック

邦文題目部分は、論文題目、著者名、所属機関名 (同住所)、要旨、キーワードから構成されます。それぞれ、次の順に横 1 段組で記載してください。

- 主題 : 16 pt, センタリング
- 行間スペース : 約 5 mm (副題があるとき)
約 10 mm (副題がないとき)



要旨およびキーワードという標題のフォントはゴシック体の全角を使用してください. その他のフォントは, 漢字・仮名は明朝体の全角, 英字・数字は Times などの代表的な Roman 体を利用してください.

複数の所属機関名を記載する際は, 著者と所属機関名をアスタリスク (*) の数で対応づけてください.

4. 本文部分のレイアウト ← 10 pt ゴシック

本文とキーワードの間に, 約 10 mm の行間スペースを設けてください. 文字間隔は, 1 段 1 行が全角で約 25 文字, 1 ページ約 50 行となるよう調整してください.

本文のフォントは漢字・仮名は明朝体の全角 9 pt, 英字・数字は Times などの代表的な Roman 体の 9 pt を用いてください.

4.1 見出し (見出しが 1 行を超えるときは, この例のようにインデントして折り返す) ← 9 pt ゴシック

見出しのレベルは 3 段階までとします. したがって, 第 3 レベルより下位の見出しは用いないでください.

4.1.1 第 1 レベルの見出し ← 9 pt ゴシック

第 1 レベルの見出し (章) のフォントは, 漢字・仮名はゴシック体の全角 10 pt, 英字・数字はゴシック体の半角 10 pt とします. 第 1 レベル番号, 半角ピリオド, 半角ブランク (例えば 4.) の直後から見出しを書きます. 見出しの上下に 1 行 (約 8 mm) の行間スペースを設けます.

4.1.2 第 2 レベルの見出し ← 9 pt ゴシック

第 2 レベルの見出し (節) のフォントは, 漢字・仮名はゴシック体の全角 9 pt, 英字・数字はゴシック体の半角 9 pt とします. 第 1 レベル番号, 半角ピリオド, 第 2 レベル番号, 半角ブランク (例えば 4.1) の直後から見出しを書きます. 見出しの上だけに 1 行 (約 8 mm) の行間スペースを設けてください.

4.1.3 第 3 レベルの見出し ← 9 pt ゴシック

第 3 レベルの見出し (項) のフォントは, 漢字・仮名はゴシック体の全角 9 pt, 英字・数字はゴシック体の半角 9 pt とします. 第 1 レベル番号, 半角ピリオド, 第 2 レベル番号, 半角ピリオド, 第 3 レベル番号, 半角ブランク (例えば 4.1.3) の直後から見出しを書きます. 見出しの上下には行間スペースを設けません.

4.2 数式および数学記号 ← 9 pt ゴシック

数式は, 次に示す式 (1), (2) のように, 全角 1 字分下げて書いてください.

$$Z = \sin^2 \frac{\pi}{5} \sum_{n=1}^{\infty} \cos \frac{(2n-1)\pi}{2} + \int_0^{2\pi} (2 \sin \theta \cos \theta - 2\theta) d\theta \quad (1)$$

$$F_c = k^2 z^2 \left(\frac{\partial U}{\partial z} \right) \left(\frac{\partial p_c}{\partial z} \right) \left(\frac{K_c}{k_m} \phi_m^2 \right) \quad (2)$$

数学記号は, 文章中に出てくる場合 (例えば F_c) も, 数式のフォントと同じものを用いてください.

式番号は括弧書きで右詰めにします.

4.3 図表 ← 9 pt ゴシック

図表の例を **Table 1** および **Fig. 1** に示します.

4.3.1 図表の位置 ← 9 pt ゴシック

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします. 入りきらない場合, 次ページに追いつ出すことはかまいませんが, 本文末尾にまとめることは不可とします. 図表の横幅は, 原則として 1 段幅以上とし

↓ 約 50 行

↓ 8 pt ホールド

↑ 図表と本文の間は 1 行空ける

Table 1 邦語で構成した表の例 (邦語表題が 1 行を超えるときは, インデントして折り返す) ← 8 pt

Example of the table (If the Japanese caption is longer than one line, indent the following lines) ← 8 pt

高さ (m)	A 地点		B 地点	
	気温 (°C)	湿度 (%)	気温 (°C)	湿度 (%)
0.5	15.3	76	16.3	74
1.0	14.7	73	15.2	72
1.5	14.5	72	14.7	70

↑ 8 pt ホールド

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

4.1.3 第 3 レベルの見出し ← 9 pt ゴシック

第 3 レベルの見出し (項) のフォントは, 漢字・仮名はゴシック体の全角 9 pt, 英字・数字はゴシック体の半角 9 pt とします. 第 1 レベル番号, 半角ピリオド, 第 2 レベル番号, 半角ピリオド, 第 3 レベル番号, 半角ブランク (例えば 4.1.3) の直後から見出しを書きます. 見出しの上下には行間スペースを設けません.

4.2 数式および数学記号 ← 9 pt ゴシック

数式は, 次に示す式 (1), (2) のように, 全角 1 字分下げて書いてください.

$$Z = \sin^2 \frac{\pi}{5} \sum_{n=1}^{\infty} \cos \frac{(2n-1)\pi}{2} + \int_0^{2\pi} (2 \sin \theta \cos \theta - 2\theta) d\theta \quad (1)$$

$$F_c = k^2 z^2 \left(\frac{\partial U}{\partial z} \right) \left(\frac{\partial p_c}{\partial z} \right) \left(\frac{K_c}{k_m} \phi_m^2 \right) \quad (2)$$

数学記号は, 文章中に出てくる場合 (例えば F_c) も, 数式のフォントと同じものを用いてください.

式番号は括弧書きで右詰めにします.

4.3 図表 ← 9 pt ゴシック

図表の例を **Table 1** および **Fig. 1** に示します.

4.3.1 図表の位置 ← 9 pt ゴシック

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします. 入りきらない場合, 次ページに追いつ出すことはかまいませんが, 本文末尾にまとめることは不可とします. 図表の横幅は, 原則として 1 段幅以上とし

↓ 8 pt ホールド

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

↑ 8 pt

下マージン 20 mm

す。図表の幅が1段幅以下の場合でも、図表の横に本文を配置することはやめてください。図表と本文の間には1行の行間スペースを設けてください。

4.3.2 図表の文字および標題 ← 9 pt ゴシック

図表の文字および標題のフォントは、漢字・仮名は明朝体の全角、英字・数字は Times などの代表的な Roman 体を使用してください。

図表中の文字のサイズは 8 pt 程度としてください。

図表の標題は、8 pt のサイズで次のように記載してください。

Fig+半角ピリオド+半角空白+番号+全角空白+空白+標題

Table+半角空白+番号+全角空白+空白+標題

なお、標題の番号は **Fig. 1**, **Table 1** のように太字表記してください。

標題が長い場合には、サンプルの **Table 1** のようにインデントして折り返します。

図表の標題は、原則として邦語と英語を併記してください。図表中の語句は、邦語または英語のどちらかに統一してください。

4.3.3 図のファイル種別 ← 9 pt ゴシック

使用する図は、分解能の高いビットマップイメージ (300 dpi 程度) を使用してください。

4.4 脚注および付録 ← 9 pt ゴシック

脚注*1 および付録はできるだけさけてください。やむを得ず脚注を使用するときは、本文該当箇所右上に*1のような脚注番号を明示し、該当ページの最下段に簡単・明瞭な文章で記述してください。なお、説明が長すぎる場合、あるいは本文の流れと直接関係がない場合には付録として本文末尾に置いてください。

また、脚注記述部分の行間を、本文の行間よりやや小さくしてもよいこととします。

4.5 引用文献 ← 9 pt ゴシック

本文中での文献の引用は、「Fast et al. (1996) によれば」、「……といわれている (丸山ら, 1986 ; 中野ら, 1992a) .」のように記述してください。

引用文献はすべて本文末尾にリストとしてまとめてください。本文との間に1行 (約 8 mm) の行間スペースを設けて、引用文献という見出しをゴシック体の全角 9 pt で書いてください。引用文献リストは、漢字・仮名は明朝体の全角 8 pt、英字・数字は Times などの代表的な Roman 体 8 pt を用いてください。

引用文献は、邦文・英文に関わらず、筆頭著者の名字のアルファベット順に並べてください。同じ発行年に同一筆頭著者の文献がある場合には、発行年の後ろに a, b, c を付けて区別してください。

引用文献は次の書式に従って、ぶら下がりインデント (全

*1 脚注の文字は、漢字・仮名は明朝体の全角 8 pt、英字・数字は Times などの代表的な Roman 体 8 pt を使用してください。

角 1 文字分の空白) で書いてください。また、英文雑誌・書籍の場合、雑誌名・書籍名はイタリックにしてください。

論文…著者名 (発行年) : 論文題目, 雑誌名, 巻(号), 開始ページ-終了ページ.

書籍…著者名 (発行年) : 書籍名, 出版社, p.引用ページ.

また、引用文献リスト部分の行間を本文の行間よりある程度小さくしてもよいこととします。

4.5.1 文献の引用例 ← 9 pt ゴシック

和文雑誌からの引用例.

…と述べている (中野ら, 1992a, 1992b).

和文書籍からの引用例.

…と報告されている (丸山ら, 1986 ; 渡辺・三野, 1999).

英文雑誌からの引用例.

…と述べている (Fast et al., 1996).

英文書籍からの引用例.

…と報告されている (Schmugge and Andre, 1991 ; Vose and Victoria, 1986).

Web サイトからの引用例.

…と述べている (Jennings, 1998 ; 気象庁, 2008).

5. 英文題目部分のレイアウト ← 10 pt ゴシック

英文題目部分と本文の間に約 10 mm の行間スペースを設けてください。区切りが悪い場合には、強制改ページして次のページの頭から英文題目部分を書き出してください。

英文題目部分も、邦文題目部分と同様に、論文題目、著者名、所属機関名 (同住所)、コレスポンディングオーサー、要旨、キーワードから構成されます。レイアウトは邦文題目部分と同様ですが、フォントは Times などの代表的な Roman 体で、次のサイズを使用してください。

主題	: 12 pt
副題	: 10 pt
著者名 (姓名の順)	: 10 pt
所属機関名, 同住所	: 9 pt
コレスポンディングオーサー	: 9 pt
要旨 (Abstract)	: 9 pt, 12 行以内
キーワード (Key word)	: 9 pt, 3 行以内

なお、主題は太字、所属機関名はイタリックにしてください。主題、副題、著者名、所属機関名 (同住所)、コレスポンディングオーサーはセンタリング、要旨、キーワードは両端揃えにしてください。英文要旨は 12 行以内で、英語キーワードは邦語キーワードの順序に対応させて記載してください。

複数の所属機関名を記載する際は、著者名と所属機関名をアスタリスク (*) の数で対応づけしてください。

6. おわりに ← 10 pt ゴシック

謝辞、付録を記載される場合には、本文の末尾、引用文献の前に置いてください。なお、記載順序は、謝辞、付録

↑ 本文等に続ける場合、引用文献の前は1行空ける

の順とします。

↓ 8 pt ゴシック ↑ 本文と謝辞の間は1行空ける ↓ 8 pt
 謝辞：謝辞は、本文との間に1行（約8mm）の間スペースを設けて書きます。謝辞という見出しをゴシック体の全角8ptで書いた後に"："（コロン）を付し、その後続けて謝辞の文章を書いてください。謝辞の文章は、漢字・仮名は明朝体の全角8pt、英字・数字はTimesなどの代表的なRoman体を用いて書いてください。

↑ 謝辞と付録の間は1行空ける

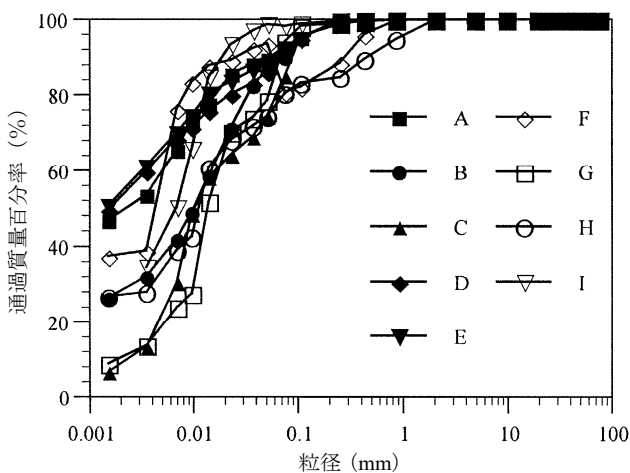
付録 付録に関する説明 ← 8 pt ゴシック ↓ 8 pt
 付録は、謝辞（謝辞がない場合は本文末尾）との間に1行（約8mm）の間スペースを設けて書きます。付録という見出しをゴシック体の全角8ptで書き、その直後に全角2文字分のブランクを設け、付録の標題をゴシック体の8ptで書きます。

付録の文章は、標題の次の行から書き始めます。付録の文字は漢字・仮名は明朝体の全角8pt、英字・数字はTimesなどの代表的なRoman体8ptを用いて書いてください。

なお、引用文献リストと同様、謝辞および付録の記述部分の行間を本文の行間よりある程度小さくしてもよいこととします。

以下に、付録での数式・図の例を示します。

$$F_c = k^2 z^2 \left(\frac{\partial U}{\partial z} \right) \left(\frac{\partial p_c}{\partial z} \right) \left(\frac{K_c \phi_m^{-2}}{k_m} \right) \quad (A1)$$



8 pt ゴシック → Fig. A1 付録の図の例 ← 8 pt
 Example of the figure ← 8 pt

↑ 英文題目を続ける場合、本文との間は約10mm空ける

↓ 8 pt 引用文献 ← 9 pt ゴシック

Fast, J.D., Zong, S. and Whiteman, C.D. (1996) : Boundary layer evolution within a canyonland basin. Part II : Numerical simulations of nocturnal flows and heat budgets, *J. Appl. Meteor.*, **35**(12), 2162-2178.

藤原鉄朗, 齋藤 豊, 森 文久, 森 充広, 渡嘉敷 勝 (2009) : 通水状態での農業用水路トンネル点検手法の開発, *農業農村工学会誌*, **77**(4), 25-28.

Jennings, A. (1998) (accessed 2007.5.14) : *Drying and Oxidation Properties of Sediments from an Urban Lake*, (online), <<http://ecivwww.cwru.edu/civil/research/urban.html>>

気象庁 (2008) (参照 2008.12.31) : ヒートアイランド監視報告, (オンライン), 入手先 <<http://www.data.kisho.go.jp/climate/cpdinfo/himr/index.html>>

丸山利輔, 五十崎 恒, 西出 勤, 村上康蔵, 四方田 穆, 高橋 勉, 三野 徹 (1986) : 新編灌漑排水上巻, 養賢堂, p.7.

森 淳, 渡部恵司, 小出水規行, 竹村武士 (2008) : 安定同位体比を用いたニホンアマガエル移動の推定, 平成20年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集, 700-701.

中野良紀, 清水英良, 西村眞一 (1992a) : 断層粘土化した新第三紀層凝灰質泥岩の力学的性質—新第三紀層泥岩の力学的性質とその実務への応用 (III)—, *農土論集*, **157**, 95-104.

中野良紀, 清水英良, 西村眞一 (1992b) : 断層粘土化泥岩地山の膨張性トンネルのメカニズム—新第三紀層泥岩の力学的性質とその実務への応用 (IV)—, *農土論集*, **161**, 57-67.

Schmugge, T.J. and Andre, J.C. (1991) : *Land Surface Evaporation*, Springer-Verlag, p.35.

Vose, P.B. and Victoria, R.L. (1986) : Re-examination of the limitations of nitrogen-15 isotope dilution technique for the field measurement of dinitrogen fixation, In: Hauck, R.D. and Weaver, R.W. (Eds.), *Field Measurement of Dinitrogen Fixation and Denitrification*, Soil Science Society of America, 23-41.

渡辺紹裕, 三野 徹 (1999) : 地域における水循環の管理, “丸山利輔, 三野 徹編, 地域環境水文学”, 朝倉書店, 145-164.

Print Sample of English Manuscripts for Transactions of JSIDRE Ver.5

↑ about 5 mm

— Example of subtitle — ← 10 pt 12 pt Bold

↑ about 10 mm

9 pt GAKKAI Taro*, RONBUN Hana** and IRRIGATION Jan*** ← 10 pt

↓

↑ about 5 mm

* Faculty of Agriculture, Noudo University, 5-34-4 Shimbashi, Minato-ku, Tokyo 105-0004, JAPAN

** Noudo Kaihatsu Co., Ltd., 6-11-2 Hakozaiki, Higashi-ku, Fukuoka 812-0053, JAPAN

*** Department of Geography, University of Arizona, Tucson, Arizona 85721, U.S.A.

Correspondence: GAKKAI T., e-mail: gakkaitaro@jsidre.or.jp

↑ about 10 mm

9 pt

↓

Abstract ← 9 pt Bold

This is a print of a camera-ready Japanese manuscript for the IDRE Journal. This will provide an example and directions for the layout and font size/style to be used. Please refer to this when preparing the headings, figures/tables and text of your manuscript. The manuscript should be submitted on A4 size.

The margin of the title section including this abstract should be 10 mm narrower than the main text. The fonts should be 9 pt of representative Roman such as Times in case of alphabet and numbers. The length of the English abstract should not exceed 12 lines. Leave one line open after the English abstract. The English key words should be in 9 pt and from 5 to 7 words.

↓ *Italicized 9 pt Bold*

↑ about 5 mm

↓ *Italicized 9 pt*

Key words : *Italicized Roman 9 pt, Five to seven words, Within two lines, One line open after abstract, Indent if the key words exceed on line*

10 mm

10 mm